

教育の実施状況等の審査に関する書類作成の手引

(学位規則第6条第1項 短期大学・高等専門学校専攻科関係)

【平成30年度版】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課

目 次

はじめに	1
○提出書類の作成に関して	1
○個人情報の取扱いについて	2
第1 審査のスケジュール	3
第2 提出書類の種類，部数及び提出期限	4
○教育の実施状況等の審査の対象となるすべての認定専攻科	4
○「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則」	
第3条第2項に該当する専攻科	4
○電子データの提出方法について	5
第3 提出書類作成上の留意事項及び作成・記入例	6
○共通留意事項（体裁について）	6
○共通留意事項（記載事項について）	6
○各様式の留意事項及び作成・記入例	
1 表紙及び背表紙	8
2 教育の実施状況等届出書（様式第1号）	9
3 目 次	10
4 専攻科等の概要を記載した書類（様式第2号）	11
5 学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する教員の氏名，経歴の概要等を記載した書類（様式第3号）	14
6 講義要目（専攻科の全授業科目）	18
7 専攻科の授業科目を担当する専任教員の現況等を記載した書類（様式第4号）	20
8 専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式第5号）等	23
（1）履歴書（様式第5号その1）	23
（2）教育研究業績書（様式第5号その2）	26
（3）講義要目（教員担当授業科目）	28
9 教育の実施状況等の審査についての連絡先（別紙1）	32
10 審査対象教員一覧（別紙2）	34

はじめに

○提出書類の作成に関して

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）は、認定を受けた専攻科における教育の実施状況等について、認定又は再審査の結果の通知日の属する年度の次年度の4月1日から、原則として5年後に審査を行い、その後、原則として7年ごとに審査を行います。

教育の実施状況等の審査に関する書類の作成にあたっては、「短期大学及び高等専門学校専攻科の認定に関する規則」（平成16年4月1日規則第29号）、「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則」（平成16年4月1日細則第4号）によるほか、本手引に沿って作成してください。

◎ 提出書類の様式は本機構ウェブサイトからダウンロードできます。必ず最新の様式を使用してください。

なお、平成30年4月に機構ウェブサイトのリニューアルを予定しています。

＜平成30年3月末まで＞

機構ウェブサイトのトップページ

(<http://www.niad.ac.jp/>)



「事業紹介」



「学位授与事業」



「**1** 短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与（学士）」



「専攻科の担当者の方向け」，「専攻科認定関係の手続き等について」



「認定の流れについて」



「認定専攻科における事務手続き御担当者はこちら」

＜平成30年4月以降（予定）＞

機構ウェブサイトのトップページ

(<http://www.niad.ac.jp/>)



「学位の授与」



「**1** 短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与（学士）」



「専攻科の担当者の方向け」，「専攻科認定関係の手続き等について」



「認定の流れについて」



「認定専攻科における事務手続き御担当者はこちら」

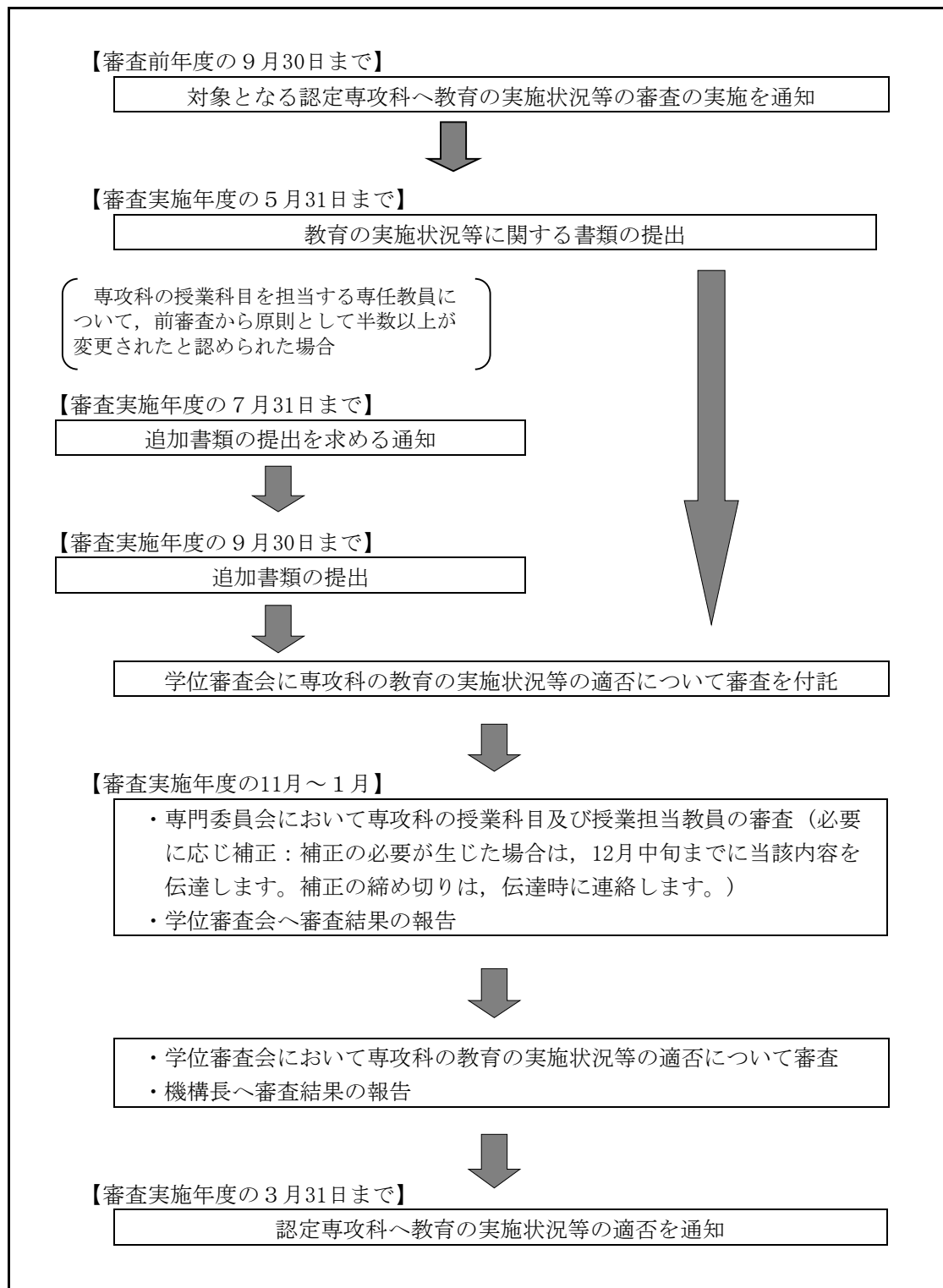
◎ 上記の各種様式（Excelファイル）の中に、記入例があります。書類作成時の参考としてご活用ください。

○個人情報の取扱いについて

機構では、教育の実施状況等の審査にあたり提出された個人情報は、教育の実施状況等の審査（専攻科改組や学則変更等による認定審査及び認定再審査を含む）においてのみ利用します。取得した個人情報については、適切・慎重に管理し、紛失、改ざん及び漏えい等の危険防止の措置を講じます。また、法令の定めに基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために、保有個人情報を利用・提供することはありません。

第1 審査のスケジュール

審査のスケジュールは、おおむね下表のとおりです。



第2 提出書類の種類、部数及び提出期限

○教育の実施状況等の審査の対象となるすべての認定専攻科

以下の「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則」に定める様式と本手引に示す別紙を提出してください。

提出書類の種類	提出部数	提出期限
1 教育の実施状況等届出書（様式第1号） 2 目次 3 専攻科等の概要を記載した書類（様式第2号） 4 学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する教員の氏名、経歴の概要等を記載した書類（様式第3号） 5 講義要目（専攻科の全授業科目） 6 専攻科の授業科目を担当する専任教員の現況等を記載した書類（様式第4号）	正本 1部 副本 1部 及び 電子データ （PDFファイル）	5月31日
※ 教育の実施状況等の審査についての連絡先（別紙1）	電子データ （PDFファイル）	5月31日
※ 学則及び専攻科に関する規則	電子データ （PDFファイル）	5月31日

（注）「※」が付されている書類は、ファイルには綴じずに提出してください。

○「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則」第3条第2項に該当する専攻科（以下「教員審査該当校」という。）

- ◆ 5月31日までに提出された書類に基づき、専攻科の授業科目を担当する専任教員について、前審査から原則として半数以上が変更されたと認められるときは、機構から7月31日までにその旨通知をします。

通知を受けた設置者は以下の「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則」に定める様式と本手引に示す別紙を提出してください。

提出書類の種類	提出部数	提出期限
7 専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式第5号）等	正本 1部 副本 1部 電子データ （PDFファイル）	9月30日
審査対象教員一覧（別紙2）	電子データ （Excelファイル）	指定された日

○ 電子データの提出方法について

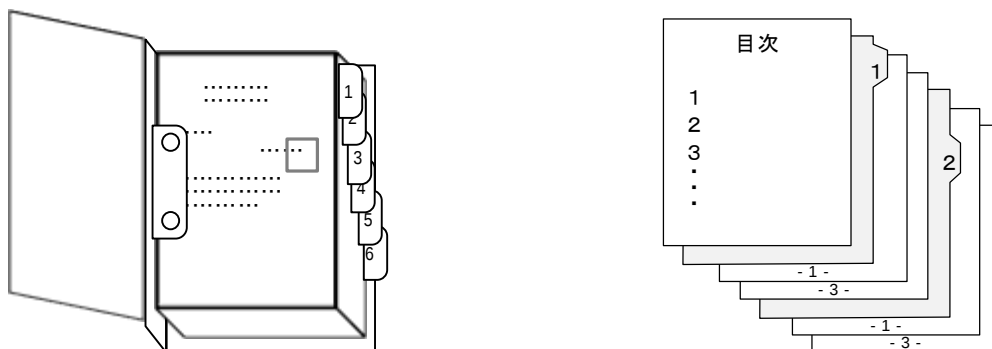
- (1) 提出を行う書類について、p. 10目次に記載の種類ごとに別ファイルとし、目次番号欄の数字及び資料名をファイル名としてPDFファイルで保存して下さい。
- (2) ただし教員の個人調書（様式第5号等）については、個人調書番号ごとに別ファイルとし、個人調書番号の数字及び教員名をファイル名としてPDFファイルで保存して下さい。
（例）「01_学位 太郎」
- (3) 電子データは、メール、CD-R又はDVD-Rにて送付してください。なお、データにはパスワードを設定する等、個人情報の取り扱いにご注意ください。

第3 提出書類作成上の留意事項及び作成・記入例

○共通留意事項（体裁について）

- （１）正本（副本）は、p. 4に掲げる１から６までの書類を番号順に綴じてください。
- （２）正本（副本）は、A 4 判縦型で両面印刷とし、左綴じにしてください。なお、とじしろには十分余裕をもたせてください。
- （３）正本（副本）は、表紙及び背表紙（p. 8 作成例参照）を付け、紙ファイル、パイプファイル等にて作成してください。
- （４）正本（副本）は、目次に沿ってインデックス（目次番号）で整理してください。
なお、作成にあたっては、目次の項目ごとに仕切り紙等を入れ、インデックスは仕切り紙等に貼りつけてください（様式等のページに直接貼りつけないでください）。また、インデックスには、目次の項目番号を記入してください。
- （５）正本（副本）のページ番号は、目次の項目ごと（インデックスごと）に１ページから開始してください。（ページ番号は「１，２…」とし、「１－１，１－２…」のように枝番号は付さないでください。）
- （６）各様式とも、必ず見開いたときの右ページから始まるようにしてください。
- （７）副本は正本のコピーとし、白黒で印刷してください。（印影含む。）
- （８）各様式の一覧表が複数ページにわたる場合は、次ページ以降の先頭行にも表題を付してください。

【作成例】



○共通留意事項（記載事項について）

- （１）提出書類（様式第５号を除く）は、特段の定めがない限り、教育の実施状況等の審査を受ける年度の５月１日現在の状況について記入してください。また、年月日は和暦で記入してください。
- （２）書類の記載内容は、直近の審査における書類の記載内容と整合性をとってください。様式第３号については特に注意してください。
- （３）書類の記載内容は、相互に関連していますので、提出書類全体を通じて整合性をとり、全体の関係に齟齬をきたさないよう、提出前に十分に確認してください。
- （４）審査対象年度以降、開設授業科目の大幅な変更等が予定されている場合は、審査等に影

響することが考えられますので、書類提出に先立って必ず担当係まで御連絡ください。

- (5) 書類提出以降、授業科目を担当する教員について、次のような変更が生じた場合には、速やかに機構まで連絡してください。

連絡がない場合、審査の結果が「否」となることもありますので注意してください。

- ① 離職、辞職、退職等
- ② 死亡
- ③ 採用（又は就任）辞退

- (6) 外国の大学等の学歴を有する教員がいる場合は、各国政府機関等のウェブサイトや大使館への確認等の手段により当該大学等が当該国の正規の大学であることを確認してください。（アメリカ合衆国、カナダ、中国（台湾、香港、マカオを除く）、イギリス、オーストラリア、フランスについては以下のURLを参照してください。）

また、現在、ユネスコにおいて、質の低い教育やディグリーミル等から学生を保護することを目的に、各国政府より認定された高等教育機関についての情報ポータルが開設されておりますので、当該ポータルも活用してください。（以下のURL参照）

なお、正規の大学と確認できない場合には、審査上の混乱を招かないようにする観点から、ディグリーミルの疑義のある経歴を記載しないようにしてください。

<ユネスコ>

<http://portal.unesco.org/>

<アメリカ合衆国>

CHEA (Council for Higher Education Accreditation)

<http://www.chea.org/search/default.asp>

U. S. Department of Education

<http://ed.gov/>

<カナダ>

CICIC (Canadian Information Centre for International Credentials)

<http://www.cicic.ca/>

<中国>

中華人民共和国教育部

<http://www.moe.edu.cn/>

<イギリス>

Department for Business Innovation and Skills

<https://www.gov.uk/recognised-uk-degrees>

<オーストラリア>

Australian Qualifications Framework (AQF)

<http://www.aqf.edu.au/>

<フランス>

Ministère de l'éducation nationale, de l'enseignement Supérieur et de la recherche

<http://www.education.gouv.fr/pid305/adresses-utiles.html>

○各様式の留意事項及び作成・記入例

1 表紙及び背表紙

表紙及び背表紙は、下記の作成例を参考に作成してください。

【表紙及び背表紙の作成例】

〔背表紙〕	〔表紙〕
※₂ (別冊) 正本 平成○年○月 ○○短期大学(○○高等専門学校)専攻科教育の実施状況等の審査に関する書類 ※₂【教員の個人調書】	※₁ 正本 ※₂ (別冊) 平成○年○月 ○○短期大学(○○高等専門学校)専攻科 教育の実施状況等の審査に関する書類 ※₂【教員の個人調書】 学校法人 ○○○○○○ (○○高等専門学校)

※₁ 副本の場合は「正本」の部分を「副本」と表記してください。

※₂ 「教員審査該当校」の場合、9月30日までに提出する「専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書(様式第5号)等」については、追記をしてください。

2 教育の実施状況等届出書（様式第1号）

「教育の実施状況等届出書」は、下記の記入例を参考に作成してください。
なお、設置者の職名は、以下のようになしてください。

①短期大学

国公立大学法人又は公立の場合 → 短期大学の学長
私立の場合 → 短期大学を設置する学校法人の理事長

②高等専門学校

独立行政法人国立高等専門学校機構又は公立の場合 → 高等専門学校の校長
私立の場合 → 高等専門学校を設置する学校法人の理事長

【様式第1号・記入例】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

〇〇短期大学（〇〇高等専門学校）専攻科
教育の実施状況等届出書

〇〇〇〇第〇〇号
平成〇年〇月〇日

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
〇 〇 〇 〇 殿

学校法人〇〇〇〇〇〇
理事長 〇〇 〇〇 印
（高等専門学校長）

平成〇年〇月〇日付け支学機構学第〇〇号にて通知のありました教育の実施状況等の審査について、認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則第3条の規定により、別添書類を添えて届け出ます。

3 目 次

目次は、次のように記載してください。

- 1 専攻科等の概要を記載した書類（様式第2号）
- 2 学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する教員の氏名，経歴の概要等を記載した書類（様式第3号）
- 3 講義要目（専攻科の全授業科目）
- 4 専攻科の授業科目を担当する専任教員の現況等を記載した書類（様式第4号）

※ 「教員審査該当校」の場合，9月30日までに提出する「専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式第5号）等」については，目次は不要です。

4 専攻科等の概要を記載した書類（様式第2号）

- (1) 「認定を受けた年度」欄には、認定適用年度（≠審査年度）を記入してください。
- (2) 「専攻科の専攻の概要」の欄中、「**専攻の名称**」欄には、設置する専攻科のすべての専攻を認定分と未認定分とに分け、専攻ごとに専攻名及び設置年度を記入してください。
 なお、認定を受けた専攻のうち、認定を受けた年度の異なる専攻については、備考欄に「平成○年度認定」と記入してください。
- ※ 審査対象年度以降、学生の募集停止、廃止等を予定している専攻は、備考欄にその旨記入してください。

- (3) 「認定を受けた専攻科の専攻の教育課程の概要」欄について

- ① 「**授業科目の名称**」欄には、専攻ごとに開設する授業科目すべてについて記入してください。（学則等の記載順に記入してください。）
- ② 「**専任・兼任教員配置**」及び「**兼任教員配置**」欄には、該当する授業科目を担当する教員の延べ人数をそれぞれ記入してください。このため、この欄における教員数（数字の合計）と「**教員組織の概要**」欄の教員数及び様式第3号における各職種の人数が必ずしも一致するとは限りませんので、ご留意ください。
 なお、専任教員のうち、専ら当該認定を受けた専攻科の授業科目を担当する本務教員を配置している場合には、（ ）書き内数で記入してください。
- ③ 専任、兼任、兼任の区分については、次表によってください。

専任	・当該専攻科の専攻の基礎となる学科等の専任教員で、当該専攻科の専攻の授業科目を担当する教員。 ・当該専攻科の専攻を本務とする教員。
兼任	同一学校における他の学科（又は専攻）の専任教員で、当該専攻の授業科目を兼ねて担当する教員。
兼任	同一学校の学科等において専任教員として所属する教員以外の者（非常勤講師等）。

- ④ クラス分け方式、オムニバス方式及び複数教員担当方式（毎回の授業を複数の教員が同時に担当する科目）の場合は、備考欄にその旨を記入してください。なお、複数の方式に該当する場合は、該当する方式名を併記してください。
- ⑤ 他の教育機関と連携して講義を行う場合、備考欄に連携科目と記載してください。
- ⑥ 選択必修の科目の単位数は選択欄に記載し、備考欄に選択必修と記載してください。
- (4) 「**教員組織の概要**」の欄中の「専攻科」及び「学科等」欄には、当該短期大学又は高等専門学校を設置するすべての専攻科及び学科等を記入してください。
 専任、兼任、兼任の区分及び専攻科の本務教員の記入方法については、(3)に準じて記入してください。
 なお、教員数については、同一人が専攻科及び学科等の双方を担当する場合には、専攻科、学科等のそれぞれに重複して記入してください。

【様式第2号・記入例】

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

専攻科等の概要を記載した書類

事 項		記 入 欄						備 考
設 置 者		学校法人 ○○○○○○○○（独立行政法人国立高等専門学校機構）						
短期大学又は高等専門学校の名称及び認定を受けた専攻科の専攻の名称		○○短期大学（○○高等専門学校）専攻科 ○○専攻 △△専攻						
短期大学又は高等専門学校の本部の位置		○○県○○市○○町○○丁目○○番○○号 （短期大学又は高等専門学校の所在地を記入してください。）						
専攻科（専攻）の設置目的		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を目的とする						
認 定 を 受 け た 年 度		平成○年度		設 置 年 度		平成○年度		
専攻科の専攻の概要	専 攻 の 名 称 （設置年度）	修 業 年 限 （修了要件）	入学定員	収容定員	在学者数	所 在 地		平成○年度 認定
	（認定分） ○○専攻 （平成○○年度）	○年 （○○単位）	○○人	○○人	○○人	○○県○○市○○町 ○○丁目○○番○○号		
	△△専攻 （平成○○年度）	○年 （○○単位）	○○	○○	○○			
	□□専攻 （昭和○○年度）	○年 （○○単位）	○○	○○	○○			
	（未認定分）○△専攻 （昭和○○年度）	○年 （○○単位）	○○	○○	○○			
	計	—	○○○	○○○	○○○			
短期大学又は高等専門学校の学科等の概要	学 科 等 の 名 称	修 業 年 限	入学定員	収容定員	在学者数	所 在 地		
	○○学科	○年	○○人	○○人	○○人	○○県○○市○○町 ○○丁目○○番○○号		
	△△学科	○年	○○	○○	○○			
	□□学科●●専攻	○年	○○	○○	○○			
	△○学科▲▲専攻	○年	○○	○○	○○			
	計	—	○○○	○○○	○○○			

	授 業 科 目 の 名 称	配当 年次	単 位 数		専 任 ・ 兼 担 教 員 配 置								兼任 教員 配置	
					専 任 教 員 配 置				兼 担 教 員 配 置					
			必 修	選 択	教 授	准教授	講 師	助 教	教 授	准教授	講 師	助 教		
認定を受けた専攻科の専攻の教育課程の概要	[〇〇専攻]													
	〇〇〇〇	1	2			1								
	〇〇〇〇	2		2	2		1						選択必修	
	〇〇〇〇	2		2		1								
	〇〇〇〇	2		2				1					オムニバス	
	⋮	⋮												
	[△△専攻]													
	〇〇〇〇	1	2				1						3	
	〇〇〇〇	1	3		2		2(1)				1		クラス分け	
	〇〇〇〇	2		1		1(1)						1	複数教員担当	
	〇〇〇〇	2		1	2			1						
	⋮	⋮												
教員組織の概要	区 分		専 任 教 員				計	兼 担 教 員				計	兼任 教員	助手
			教 授	准教授	講 師	助 教		教 授	准教授	講 師	助 教			
	専 攻 科	(認定分) 〇〇専攻	2人	3人	1人	1人	7人	0人	2人	0人	0人	2人	6人	0人
		△△専攻	3(2)	4(2)	1	0	8(4)	1	1	1	0	3	0	0
		□□専攻	3	2	1	1	7	0	1	0	0	1	5	0
		(未認定分) 〇△専攻	2	4	3	2	11	2	1	0	0	3	0	0
	学 科 等	〇〇学科	4	3	2	0	9	2	3	0	0	5	3	1
		△△学科	3	3	3	0	9	0	1	0	0	1	2	2
		□□学科●●専攻	3	2	0	0	5	1	2	1	0	4	3	0
△○学科▲▲専攻		2	4	2	0	8	2	2	1	0	5	4	0	

※ 「教員組織の概要」欄の教員数が様式第3号における各職種の人数と一致しているか確認してください。

5 学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する教員の氏名、 経歴の概要等を記載した書類（様式第3号）

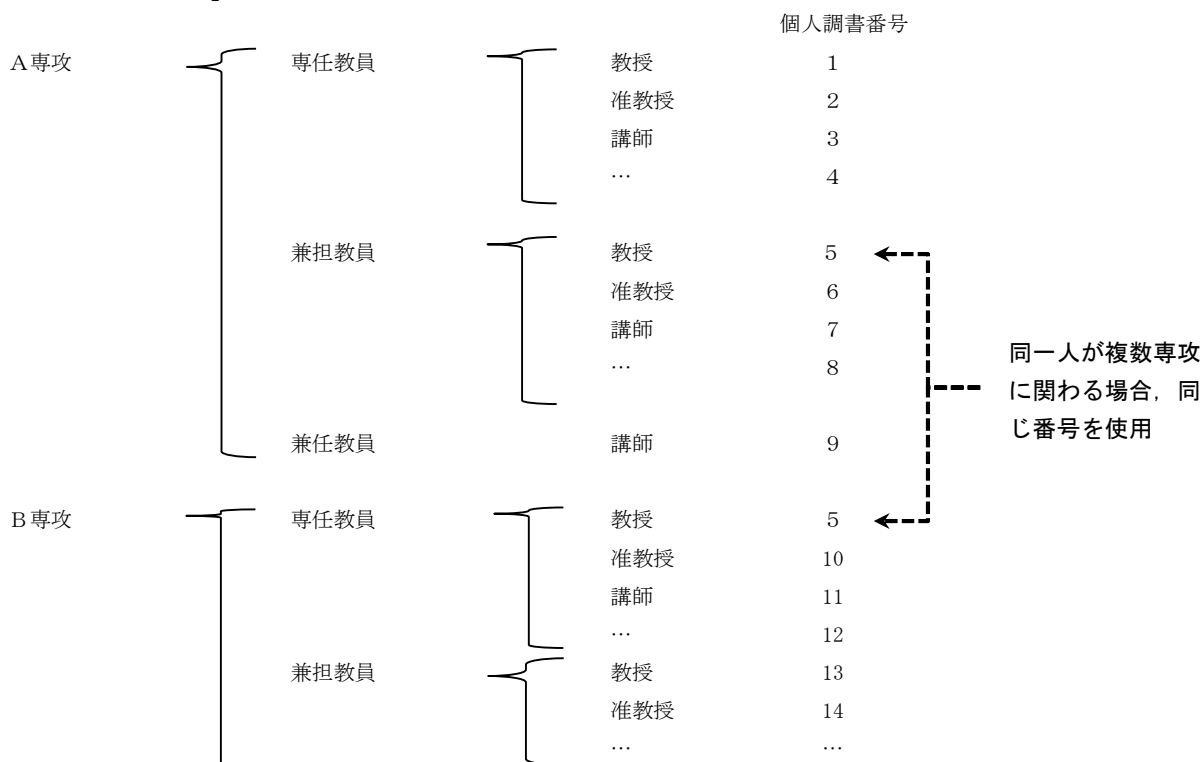
（1）この書類は、教育の実施状況等の審査を受ける専攻科の専攻ごとに作成してください。

学長又は校長については最初に記入し、1人分のスペースを空けてから、専攻ごとに授業科目を担当する教員（助手を除く。）について記入してください。

（2）「**個人調書の番号**」欄は、通し番号とした上で、各教員固有の番号としてください。同一人が複数専攻に関係する場合でも、最初に使用した番号を付してください。

（3）教員は、専任、兼担、兼任（区分の仕方については、様式第2号に同じ（p.11 参照））の順に記入してください。また、専任、兼担の教員の記入については、それぞれ教授、准教授、講師、助教の順に記入してください。

【並べ方のイメージ】



（4）「**氏名**」欄について

① 「氏名」について、教育・研究上で使用している氏名を記載してください。（旧姓等の通称名を主として教育・研究上で使用している場合は、（ ）書きで本名を併記してください。

② 「＜就任(予定)年月＞」については、当該専攻への就任又は就任予定年月を記入してください。

（5）「**年齢**」の欄には、審査実施年度の5月1日現在の満年齢を記入してください。

（6）「**担当授業科目名**」欄について

① 当該専攻において担当する授業科目名のみを学則等の記載順に記入してください。

② 同一専攻において二つ以上の授業科目を担当する教員については、当該専攻において担当するすべての授業科目名（クラス分け方式、オムニバス方式及び複数教員担当方式の授業も含む。）を一括して記入してください。（同一教員を再掲しないでください。）

(7) 「担当単位数」欄について

- ① 各授業科目について、1年間の延べ担当単位数を記入してください。また、担当授業科目ごとに前期、後期、通年及び集中講義の別を明示して記入してください。
- ② 実験・実習や複数の教員が担当する授業などの場合は、以下の例によってください。(小数点第2位を四捨五入)

ア オムニバス方式や複数教員担当方式の場合は、当該授業科目の授業における担当の割合を乗じてください。

例：A教員が2単位のオムニバス方式の授業科目15回のうち、3回担当する場合
 $2\text{単位} \times 3/15\text{回} = 0.4\text{単位}$

イ 複数の場所で同時に実施される授業科目で場所ごとに教員が配置されている場合や、一つの授業科目に科目責任者の教員と現場指導者の教員がいる場合は、設定単位数のすべてを各教員が担当するとしてください。

例：〇〇病院と◇◇病院で同時に行う2単位の实習科目で、〇〇病院での指導をA教員が担当する場合 ⇒ 2単位

(8) 「学歴等」欄について

- ① 「卒業大学(学校)学部学科名及び卒業年月」欄には、卒業した大学(学校)名、学部名及び学科名について、正式名称を記入してください。(略称等を用いないでください。)
 - ・ 記載については学部名及び学科(課程)名までとし、専攻名等は記入しないでください。
- ② 「学位の種類並びに修了大学院研究科名及び修了年月」欄には、取得した修士、博士又は専門職学位(外国のこれらに相当する学位を含む。)すべてについて記入してください。
 - ・ 学位の種類については授与した大学名、修了大学院研究科名については課程名についても、省略せずに正式名称を記入してください。(略称を用いないでください。)
 - ・ 記載については研究科及び課程名までとし、専攻やコースについては記入しないでください。
 - ・ 論文博士については、学位の名称、大学名、取得年月のみを記入してください。(p.17【様式第3号・記入例】個人調書の番号2の欄を参照)
 - ・ 博士課程で単位取得満期退学した場合、保有する修士についてのみ記入し、本欄には「博士課程単位取得満期退学」とは記入しないでください。(様式第5号とは異なりますのでご留意ください。)
 - ・ 学位の名称については授与された当時の名称を記載してください。(「〇〇博士」と「博士(〇〇)」の違いにご留意ください。)
 - なお、制度の改正等により新たな名称(例：工学博士 → 博士(工学)等)に置き換える必要はありません。
 - ・ 外国の大学等の経歴を記入する場合は、必ず大学等の名称や学位等について、アルファベットとカタカナ又は漢字を併記(漢字で記入できる場合は漢字のみ記入)し、大学等の所在する国名を記入してください。

(9) 「教歴」欄には、大学、短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所及び国立養護教諭養成所における専任教員(助手を除く。)としての経験年数(審査実施年度の5月1日現在)を記入してください。(1年未満は切り捨てとし、〇か月は記入しないこと。)

(10) 「著書・学術論文等の数」欄については、著書・論文等の業績を「著書」、「論文」、「その他」と分類して記入してください。

- ・ 「著書」、「論文」、「その他」については、それぞれ次の各業績を含みます。
 - 「著書」 … 著書
 - 「論文」 … 国際学術雑誌、学会機関誌、研究報告、研究紀要等に学術論文として発表したもの及び学位論文(修士論文、博士論文)
 - 「その他」…総説、学会抄録、依頼原稿、報告発表、座談会、討論会、特許、その他著書・学術論文に含まれないもの、
「音楽」分野における演奏、作曲、指揮、CD等制作、

「美術」分野における出品（個展等も含む）

- ・ 括弧内には、教員審査の有無にかかわらず、認定の審査、再審査又は教育の実施状況等の審査のうち直近の審査実施年度の5月1日以降に積み上げた業績数を内数として記載してください。なお、直近の審査以降に専攻科へ就任した教員についても、括弧内に業績数を記載することを要します。
- ・ 教員審査に該当する場合、著書・学術論文等については、9月30日までに提出する「教育研究業績書（様式第5号その2）」の業績数（p.26参照）と一致するようにしてください。

(11) 「現職」欄は、本務先における**審査実施年度の5月1日現在**の所属及び職名（教授、准教授等）とその職に就任した年月を記入してください。

① 常勤職に就いていない場合は、「－」を記入してください。

② 平成19年4月の改正学校教育法の施行に伴う「就任年月」の取扱いについて

- ・ 平成19年4月より前に助教授となり、現在は准教授である教員については、助教授に就任した年月を記入してください。
- ・ 平成19年4月より前に助手となり、平成19年4月に助教となった教員については、助教への就任年月を記入してください。（例：平成19年4月就任であれば、「H19.4」と記入。
p.17【様式第3号・記入例】個人調書の番号4の欄を参照）

【様式第3号・記入例】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する
教員の氏名、経歴の概要等を記載した書類

(専攻科○○専攻)

個人調書の番号	専任・兼任・兼任の別	職名	ふりがな氏名 (性別) 〈就任(予定)年月〉	年齢	担当授業 科目名	担当 単位数			学 歴 等		教歴	著書・ 学術論文等の 数 〔 〕	現 職 〔 就 任 年 月 〕
						講 義	演 習	実 験・ 実 習	卒業大学 (学校) 学部学科 名及び卒業年月	学位の種類並びに 修了大学院研究科 名及び修了年月			
		学 長	ふりがな たろう ○○ ○○ (男) 〈平成○年4月〉	○才					○○大学 ○○学部 ○○学科 昭和○年○月	○○博士 (○○大学) ○○大学 大学院○○学 研究科 博士課程 昭和○年○月	○年		学 長 (H5. 4)
1	専 任	教 授	ふりがな じろう ○○ ○○ (男) 〈平成○年4月〉	○才	○○○○○○論 ○○○○○○演習 ○○○○○○実験	通 ○	後 ○	通 ○	○○大学 ○○学部 ○○学科 昭和○年○月	○○博士 (○○大学) ○○大学 大学院○○学 研究科 博士課程 昭和○年○月 ○○修士 (○○大学) ○○大学 大学院○○学 研究科 修士課程 昭和○年○月	○年	著書○ 論文○ その他○ 〔 著書○ 論文○ その他○ 〕	○○学科 教授 (H2. 4)
2	専 任	教 授	ふりがな はなこ ○○ ○○ (女) (△△) 〈平成○年4月〉	○才	○○○○○○論 ○○○○○○演習 ○○○○○○実験	集 ○	前 ○	通 ○	○○大学 ○○学部 ○○学科 昭和○年○月	○○博士 (○○大学) 昭和○年○月	○年	著書○ 論文○ その他○ 〔 著書○ 論文○ その他○ 〕	○○学科 教授 (H3. 4)
3	専 任	准教授	ふりがな さぶろう ○○ ○○ (男) 〈平成○年4月〉	○才	○○○○○○論 ○○○○○○演習 ○○○○○○実験	前 ○	後 ○	通 ○	○○大学 ○○学部 ○○学科 昭和○年○月	○○修士 (○○大学) ○○大学 大学院○○学 研究科 修士課程 昭和○年○月	○年	著書○ 論文○ その他○ 〔 著書○ 論文○ その他○ 〕	○○学科 准教授 (H2. 4)
4	専 任	助 教	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	○○学科 助教 (H19. 4)
5	兼 担	教 授	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	△△学科 教授 (H6. 4)
6	兼 任	講 師	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	○○大学 ○○学部 教授 (H4. 4)
7	兼 任	講 師	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	—
8	兼 任	講 師	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	㈱○○社 取締役 (H12. 4)

6 講義要目（専攻科の全授業科目）

（１）冒頭ページに、「講義要目目次」（授業科目ごとのページ数がわかるように記載）を作成してください。なお、講義要目は学則等の記載順にしてください。

（２）講義要目は下記の作成例に従い、学校で作成しているシラバス（授業計画）を基にして作成してください。その場合、以下の要領に基づき、加筆等修正したものを提出してください。（特に（３）④，（５）①にご留意ください。）

（３）講義要目は専攻科のすべての授業科目について、次の事項を必ず記入し、様式第２号の授業科目の順番で審査を受ける専攻ごとに作成してください。

- ① 授業科目名
- ② 単位数及び授業形態（講義、演習、実験、実習等の別）
- ③ 授業科目の配当年次（例：○年次前期，○年次通年，○年次夏季集中など）
- ④ 担当教員の職名及び氏名（個人調書の番号を付記する）
- ⑤ 授業の内容

（４）「授業の内容」欄については、授業の概要のみではなく、授業の内容が十分かつ正確に理解できるように記入してください。

※ 記述の内容が不十分であったり、不正確であったりすると、判定ができない場合がありますので、留意してください。

（５）同一授業科目を複数の教員が担当している場合について

- ① 「授業の内容」欄に、担当教員の分担がクラス分け方式か、オムニバス方式か、複数教員担当方式か、連携教育科目かを明記してください。（p. 19の作成例参照）なお、複数の方式に該当する場合は、該当する方式名を併記してください。
また、オムニバス方式の場合、「備考」欄に担当する回数を記入してください。
- ② 当該授業科目の全体の内容を記入することに加え、教員ごとの担当内容を記入してください。（各教員の専門、担当内容が十分に理解できるように記入してください。）
- ③ 特別研究等については、当該教員が指導・担当する研究分野が明確になるように記載してください。

※ 講義要目については、様式第５号の教員の個人調書（教員審査該当校のみ提出）にも、記載内容が同一のものを添付する必要があります。なお、様式第５号に添付する講義要目については、当該授業科目に関連する担当教員の業績番号を併記することになりますので注意してください。（p. 28(3)参照）

[illegible]

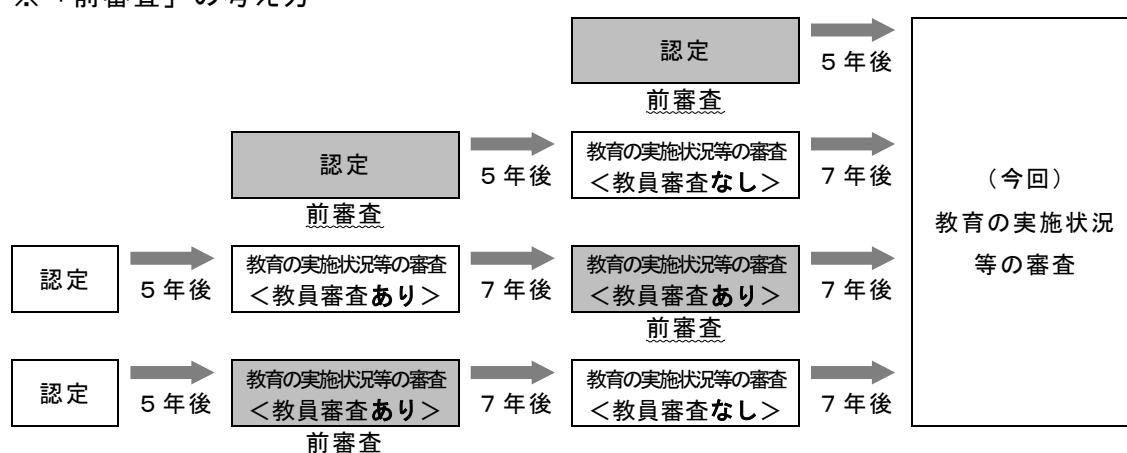
7 専攻科の授業科目を担当する専任教員の現況等を記載した書類（様式第4号）

- (1) この書類は、短期大学及び高等専門学校の特攻科の認定に関する規則（平成16年4月1日規則第29号）第4条、第7条又は第9条の規定による審査のうち、直近の教員審査（以下「前審査」という。）における専攻科の授業科目を担当するすべての専任教員の状況（現況において専任教員でない者等も含む。）と、教育の実施状況等の審査実施年度におけるすべての専任教員の「現況」について記入してください。

なお、前審査において補正審査による書類の差し替えがあった場合は、補正後の専任教員及び担当授業科目の状況（前審査における差し替え後の様式第3号上で「新」と示される）について記入してください。

- ※ この書類については、いつの審査が「前審査」に該当するのを確認のうえ、作成してください。教育の実施状況等の審査においては、教員審査を「実施した場合」と「実施していない場合」とがあります。教員審査を実施していない場合は、ここでいう「前審査」には該当しませんので十分注意してください。「前審査」については以下の例を参照してください。

※「前審査」の考え方



- (2) 教員の記入については、教授、准教授、講師、助教の順としてください。
- (3) 前審査時に専任であった教員は、全て記入してください（兼任、兼任は不要）。なお、前審査後に専任の教員でなくなった者の現況の欄は、空欄としてください。
- (4) 前審査後に専攻科の授業科目を担当する専任教員に就任した者については、現況の欄の前審査を受けた教員に引き続き記入してください。
- (5) 前審査時点において専攻科の授業科目を担当していた専任教員が、前審査後に新たに担当することとなった授業科目は、現況の担当授業科目名に下線を付してください。
- (6) 「個人調書の番号」の欄には、今回審査の個人調書番号を記入し、前審査における個人調書番号を記入しないようにしてください。なお、前審査後に専任の教員でなくなったものについては、空欄としてください。
- (7) 「前審査の状況」及び「現況」欄の下に、それぞれの基準年月を（ ）書きで記入してください。前審査において補正があった場合でも、基準年月は下記のとおりとしてください。
- 前審査が平成〇〇年度実施の教育の実施状況等の審査である場合
 - 「前審査の状況」 → （平成〇〇年5月）
 - 「現況」 → （【審査実施】年5月）
 - 前審査が平成△△年度実施の認定の審査である場合
 - 「前審査の状況」 → （平成△△年9月）
 - 「現況」 → （【審査実施】年5月）

- (8) 「担当授業科目名」の欄には、当該専攻において担当する授業科目のみ記入してください。
- (9) 同一専攻において二つ以上の授業科目を担当する教員については、「担当授業科目名」欄にその者の担当する授業科目名を一括して記入し、同一教員を再掲しないでください。
- (10) 現況の欄の「専任教員数計」欄の（ ）内には、専攻科の授業科目を担当する専任教員のうち、過去に教員の個人調書等による審査を受けていない教員（前審査において兼担，兼任教員だった者を含む。）数を内数で記入してください。
- (11) 「備考」欄には、記入しないでください。

【様式第4号・記入例】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

専攻科の授業科目を担当する専任教員の現況等を記載した書類

〇〇短期大学(〇〇高等専門学校)専攻科〇〇専攻

個人調書の番号	ふりがな 氏 名	前 審 査 の 状 況 (平成〇年〇月)			現 況 (平成〇年5月)		
		職 名	担 当 授 業 科 目 名	備 考	職 名	担 当 授 業 科 目 名	備 考
	ふりがな たろう 〇〇 〇〇	教授	〇〇〇〇〇〇論				
			〇〇〇〇〇〇演習				
			〇〇〇〇〇〇実験				
			〇〇〇〇〇〇論				
1	ふりがな はなこ 〇〇 〇〇	教授	〇〇〇〇〇〇論		教授	〇〇〇〇〇〇論	
			〇〇〇〇〇〇演習			〇〇〇〇〇〇演習	
			〇〇〇〇〇〇実験			〇〇〇〇〇〇実験	
						〇〇〇〇〇〇論	
5	ふりがな じろう 〇〇 〇〇				教授	〇〇〇〇〇〇論	
						〇〇〇〇〇〇演習	
						〇〇〇〇〇〇実験	
						〇〇〇〇〇〇論	
	ふりがな さぶろう 〇〇 〇〇	准教授 ※	〇〇〇〇〇〇論				
			〇〇〇〇〇〇演習				
			〇〇〇〇〇〇実験				
6	ふりがな はなえ 〇〇 〇〇	准教授 ※	〇〇〇〇〇〇論		教授	〇〇〇〇〇〇論	
			〇〇〇〇〇〇演習			〇〇〇〇〇〇演習	
			〇〇〇〇〇〇実験			〇〇〇〇〇〇実験	
10	ふりがな いちろう 〇〇 〇〇	准教授 ※	〇〇〇〇〇〇論		准教授	〇〇〇〇〇〇論	
			〇〇〇〇〇〇演習			〇〇〇〇〇〇実験	
			〇〇〇〇〇〇実験			〇〇〇〇〇〇セミナー	
7	ふりがな ごろう 〇〇 〇〇				准教授	〇〇〇〇〇〇論	
						〇〇〇〇〇〇演習	
専任教員数計	職 名	専 任 教 員 数			専 任 教 員 数		
	教 授	人			() 人		
	准 教 授	人			() 人		
	講 師	人			() 人		
	助 教	人			() 人		
	計	人			() 人		

※「前審査」が平成19年度以前の場合は、当時の職名である「助教」等と記載してください。

8 専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式第5号）等

- この書類は、教員審査の中心となる書類です。記載内容に不備があると判定できない場合がありますので、特に留意してください。
- この書類の内容については特段の定めがない限り、記入日現在における状況を記載してください。
- この書類は、当該教育の実施状況の審査を受ける専攻科の授業科目を担当するすべての教員（助手を除く。）について提出してください。また、記載内容の表記方法は、全教員を通じて統一するようにしてください。
- 教員個人ごとに、以下の書類を作成してください。
 - (1) 履歴書（様式第5号その1）
 - (2) 教育研究業績書（様式第5号その2）
 - (3) 教員が担当する授業科目の講義要目（関連業績番号入りのもの）
- 教員個人ごとに通し番号（様式第3号の個人調書の番号と同一）を記したインデックスで整理し、右ページから始まるように作成してください。また、ページ番号については教員個人ごとに1ページから開始し、上記資料（1）～（3）の順に通してページ番号を付してください。
なお、ファイルに綴じる際は、教員個人ごとに仕切り紙等を入れ、インデックスは仕切り紙等に貼り付けてください。（様式等のページに直接貼りつけないでください。）
- 「氏名」の欄の「印」については、記名（ワープロ打ち）の上押印、若しくは本人の署名（押印は不要）のいずれかによってください。

（1）履歴書（様式第5号その1）

- ① 「氏名」欄には教育・研究上で使用している氏名を記載してください（旧姓使用や通称名使用も含む）。なお、教育・研究上使用している氏名と異なる氏名がある場合は、氏名の後ろに（ ）で本名、旧姓等を記載してください。
- ② 「本籍地又は国籍」欄には、日本国籍の者は都道府県名を、外国籍の者は国名を記入してください。
- ③ 「生年月日（年齢）」欄の年齢は、審査実施年度の5月1日現在の満年齢を記入してください。（様式第3号と同じ。）
- ④ 「年月」欄は、和暦で記入してください。
- ⑤ 「学歴」欄については、大学、短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校の卒業又は修了の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する者は、これらの学歴のすべてについて記入し、その他の者は、最終学歴について記入してください。なお、名称については、正式名称を記入してください。
 - ア 取得した学位についても同欄に記入してください。この場合、付記された専攻分野の名称を併記してください。なお、学位の名称については授与された当時の名称として、制度の改正等による新たな名称（例：工学博士 → 博士（工学）等）に置き換える必要はありません。
 - イ 博士課程の修了要件をすべて満たし、博士の学位を取得しないまま退学した場合には、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。（様式第3号とは異なりますのでご留意ください。）

- ウ 称号、資格（医師、看護師、教員等）についても同欄に記入してください。この場合、登録番号も付記してください。また、外国の資格については、資格名を正確に記入し、その資格の内容を日本語で併記してください。
- エ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- オ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、必ず大学等の名称や学位等について、アルファベットとカタカナ又は漢字を併記（漢字で記入できる場合は漢字のみ記入）し、大学等の所在する国名を記入してください。
- ⑥ 「職歴」欄には、すべての職歴（自営業・主婦・無職等を含む。）を記入し、職名、地位等についても正式名称で明記してください。
- ア 各職歴については、在職期間が明確になるように記入してください。（例：「〇年〇月まで」「現在に至る」等）
- イ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ウ 大学の教員の職歴を有する者については、大学において担当した主な授業科目を（ ）で併記してください。特に、当該専攻科の専攻において担当する授業科目に関係するものについては、必ず記入してください。
- エ 教員としての教育研究活動以外の経歴を有する場合も、職名、地位等を記入してください。また、特に担当授業科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。（例：「看護学実習」担当の教員で看護師経歴のある者の当該看護師時の勤務病棟等）
- オ 外国の大学等の経歴を有する者は、必ず大学の名称等についてアルファベットとカタカナ又は漢字を併記（漢字で記入できる場合は漢字のみ記入）し、大学等の所在する国名を記入してください。
- ⑦ 「学会及び社会における活動等」欄には、本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入してください。
- ア 学会及び社会における活動等に期間がある場合には、所属期間が明確になるように記入してください。（例：「〇年〇月まで」「現在に至る」等）
- イ 所属学会名は、省略せずに正確に記入してください。
- ⑧ 「賞罰」の欄には、学会や出版社からの表彰や職務上の表彰、あるいは懲戒処分や研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。該当する事項がない場合には、「なし」と記入してください。
- ⑨ 「職務の状況」欄には、記入日現在における職務の状況をすべて記入してください。
- ア 教員としての教育研究活動以外の職務を有する者については、「勤務先」「職名」欄のみ記入すると共に、職務内容を「備考」欄に簡潔に記入してください。
- イ 「担当単位数」欄は、p. 15(7)にならって、当該年度において担当するすべての授業科目（前期・後期・集中を問わず）を記入してください。なお、同一の授業科目を複数クラス担当する場合は1年間の延べ担当クラス数を備考に記入してください。（例：「2クラス担当」）

【様式第5号（その1）・記入例】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書

（その1）

履 歴 書								
ふ り が な 氏 名	ふり がな いち ろう 〇 〇 〇 〇	男・女	本籍地又 は国籍	〇 〇 県				
生年月日（年齢）	昭和〇〇年 〇〇月 〇〇日生（〇〇歳）		現住所	〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号				
学 歴								
年 月	事 項							
昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 平成 〇年 〇月 平成〇〇年 〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業 〇〇〇〇の資格取得（〇〇〇〇第〇〇〇〇〇号） 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程修了 〇〇修士 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻博士課程単位取得満期退学 博士（〇〇）〇〇大学 エービーシー大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程修了 〇〇修士 〇〇国 （ABC University school of 〇〇, Master of 〇〇）							
職 歴								
年 月	事 項							
昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 平成 〇年 〇月 平成 〇年 〇月	〇〇短期大学〇〇学科助手（昭和〇〇年〇月まで） △△△株式会社△△△センター研究員（昭和〇〇年〇月まで） 〇〇短期大学〇〇学科講師（昭和〇〇年〇月まで） 〇〇短期大学〇〇学科助教授（昭和〇〇年〇月まで） 〇〇国〇〇大学へ〇〇〇〇〇として留学（昭和〇〇年〇月まで） 〇〇〇〇〇〇大学〇〇学部〇〇学科非常勤講師（「〇〇〇〇〇」担当）（現在に至る） 〇〇短期大学〇〇学科教授（現在に至る）							
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等								
年 月	事 項							
昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月 昭和〇〇年 〇月	〇〇〇〇〇〇学会会員（平成〇〇年〇月まで） 〇〇〇〇〇〇学会会員（現在に至る） 〇〇〇〇〇〇学会評議員（現在に至る）							
賞 罰								
昭和〇〇年 〇月	〇〇〇〇〇〇〇賞受賞							
職 務 の 状 況								
勤 務 先	職 名	学部、学科 等（所属部 局）の名称	担当授業科目名	担当単位数				備 考
				専任	兼任	兼任	計	
〇〇短期大学	教 授	専攻科〇〇専攻	〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇	前2 前4 後2 通2			前6 後2 通2	2専攻共通開講
		専攻科△△専攻	〇〇〇〇〇〇		通2		通2	2専攻共通開講
		〇〇学科	〇〇〇〇〇〇	通2			通2	2クラス担当
〇〇〇〇〇〇大学	非常勤講師	〇〇学部〇〇学科	〇〇〇〇〇〇			通2	通2	
上記のとおり相違ありません。 平成〇〇年〇〇月〇〇日 氏名 〇 〇 〇 〇 ㊟								

(2) 教育研究業績書（様式第5号その2）

① 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

ア 「事項」の欄には、各区分に該当する担当授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を年月順（「現在→過去」の順）で簡潔に記入してください。

イ 「年月日」の欄には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。

ウ 「概要」の欄には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

エ 「教育上の能力に関する事項」には教員の職歴における業績を記入してください。

「教育上の能力に関する事項」の例

1教育方法の実践例	○ 授業外における学習を促進する取組、授業内容のインターネット上での公開等 ○ 司法研修所等の教育機関における教育経験 ○ 優れた教育方法の実践例 ○ 双方向的な授業の展開 ○ マルチメディア機器を活用した授業方法の開発 ○ 新しい科学実験指導方法の開発 ○ インターンシップの活用 ○ 適切な成績評価法の開発 など
2作成した教科書、教材	○ 授業や研修指導等で使用する著書、教材等 ○ 作成した教科書 ○ 授業で教材として使用している著書等 ○ 授業のために開発した教材等（配布用プリント教材、実験器具、OHP教材、インターネット教材、一連の小テスト、問題集など）
3教育上の能力に関する学校の評価	○ 採用決定の際等における評価内容 ○ 各学校における自己点検・評価での評価結果 ○ 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果
4実務の経験を有する者についての特記事項	○ 大学から受け入れた実習生等に対する指導 ○ 日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等 ○ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修 ○ 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
5その他	○ 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等 ○ 国家試験問題の作成等

オ 「職務上の実績に関する事項」には教員の職歴以外の職歴における業績を記入してください。

「職務上の実績に関する事項」の例

1 資格、免許	○ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で担当授業科目に関連するもの
2 特許等	○ 教員以外の業績において取得した特許、実用新案等で担当授業科目に関連するもの
3 実務の経験を有する者についての特記事項	○ 大学との共同研究 ○ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績 ○ 各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員 ○ 行政機関における調査官等の官職 ○ 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表 ○ 調査研究、留学、海外事情調査等 ○ 上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等 ※ その他該当する事項については、次表「（参考）職務上の実績に関する特記事項例」を参照
4 その他	○ 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等 ○ 論文の引用実績等

(参考) 「職務上の実績に関する事項」の実務の経験を有する者についての特記事項例

○ 企業、官公庁等の研究者の場合	・ 開発した新製品・製法，作物等の新品種などの概要 ・ 取得した特許等の概要 ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合，その概要，成果，当該研究者の役割
○ その他、企業・団体等関係者	・ 国際援助・開発，先端技術，国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績
○ 情報技術者関係の場合	・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法，ソフト・システム開発歴）
○ マスコミ関係者の場合	・ 執筆した記事の概要 ・ 作成した番組の概要
○ 医師や看護師等医療技術者の場合	・ 臨床活動等 ・ 症例研究会での発表等の活動
○ 福祉その他社会的活動の関係者の場合	・ 参加した活動や団体の名称，活動内容・期間，本人の当該活動における地位
○ スポーツ等実技関係者の場合	・ 指導者としての経歴・実績・資格 ・ 競技歴
○ 博物館，美術館等関係者の場合	・ 担当した展覧会の概要 ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要
○ その他全般を通じて	・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護実習福祉実習・企業実習等） ・ 企業内教育，大学公開講座，社会教育講座の講師としての講義等の概要

②「研究業績等に関する事項」の欄について

「著書」，「学術論文」，「その他」については，それぞれ次の各業績を含みます。

- 「著書」… 著書
- 「学術論文」… 国際学術雑誌，学会機関誌，研究報告，研究紀要等に学術論文として発表したものと
及び学位論文（修士論文，博士論文）
- 「その他」… 総説，学会抄録，依頼原稿，報告発表，座談会，討論会，特許，その他著書・学術論文に
含まれないもの
「音楽」分野における演奏，作曲，指揮，CD等制作
「美術」分野における出品（個展等も含む）

ア 「著書，学術論文等の名称」の欄について

- (a) 研究等に関連する主要な業績を，（著書），（学術論文），（その他）の項目に適切に区分し，業績を発表順（「現在→過去」の順）に通し番号を付して記入してください。なお，各分類項目に該当する業績がない場合は，「該当なし」と記入してください。
- (b) 公表前の著書・論文等のうち，届出締め切り後に出版又は学会誌等での掲載が決定されているもの及び掲載審査中のものについては，掲載予定であることを明記してください。証明書を添付する場合に限り，業績として記載することができます。ただし，投稿予定のものについては，記載できません。

【証明書の必要項目】

- ・ 著書等の名称（共著の場合は，担当部分の名称及び著書等が掲載される書籍の名称を記入してください。）
 - ・ 著書等の執筆者名
 - ・ 出版予定年月
 - ・ 出版先の名称及び責任者の氏名，証明印（外国の場合は自筆のサインでも可）
- ※ 上記の項目が掲載された編集責任者等からの論文掲載決定通知又は論文受理通知（いずれもメール可）を証明書に変えて提出することもできます。
- (c)（著書）については，書名を記入してください。
 - (d)（学術論文）については，発表した論文の題名を記入してください。査読付の論文については，題名の後に「（査読付）」と記載してください。
また，学位論文については，題名の後にその旨を明記してください（例：（修士論文），（博士論文））。
 - (e)（その他）については，総説，学会抄録，依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを，報告発表，座談会，討論等にあつては当該テーマを記入してください。
 - (f) 当該業績数は「学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する教員の氏名等を記載した

書類（様式第3号）」における著書・学術論文等の数と一致するようにしてください。
(p. 15(10)参照)

- (g)「教育上の能力に関する事項」または「職務上の実績に関する事項」として記載した著書・学術論文等を「研究業績等に関する事項」にも記載する場合は、「著書・学術論文等の名称」の後ろに「（再掲）」と付してください。

イ 「**単著・共著の別**」の欄には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編者、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。

ウ 「**発行又は発表の年月**」の欄には、当該著書等の発行又は発表した年月を和暦で記入してください。

- ・ 学位論文については、学位を授与された年月を記入してください。

エ 「**発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称**」の欄について

- ・ 著書については、発行所及び全ページ数を記入してください。
- ・ 学位論文については、学位を授与された大学名のみを記入してください。研究科名等の記入は不要です。
- ・ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ（例：pp. 〇〇～〇〇）等を記入してください。
- ・ 報告発表等については、学会大会名、開催場所等を明記してください。

オ 「**概要**」の欄について

(a) 当該著書等の概要を**200字程度**で記入してください。

(b) 当該著書等が**共著の場合は、次の点に留意して記入してください。**

- ・ 全体概要、本人の担当部分（章、節、題名及び掲載ページ）及びその概要、著作者全員の氏名の順でそれぞれ項目立てをして記入してください。（記入例参照）
- ・ 本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、当該業績における役割等を明記してください。また、当該業績における役割等も記入できない場合は、その理由を付した上で抽出不可と明記してください。（例：～のため抽出不可）
- ・ 本人の氏名（下線を付すこと。）を含め、著作者全員（多数にわたる場合は主要な共著者）を、当該著書等に記載された順に記入してください。
- ・ 筆頭論文である場合は、その旨を明記してください。

※ 外国語で著されている場合、当該著書等の概要は日本語で記入してください。

カ 音楽の「作曲」に係る業績については、出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載（再演は不要）してください。また、「演奏」に係る業績については、日付と会場のほか、主な曲目と演奏楽器を記載してください。

美術に係る業績について作品集の提出を希望する場合は、1部用意してください。なお、作品集については返却が可能なので、提出時にその旨申し出てください。

キ 著書・学術論文等が膨大な場合は、主要な業績や直近の業績のみを記載し、その他のものについては「ほか〇件」と省略することもできます。

ただし、個人調書の後ろに添付する講義要目（p. 28(3)参照）に記載する業績については、略さずに必ず記入してください。

（3）講義要目（教員担当授業科目）

- ① 当該教員が審査に係る専攻において担当するすべての授業科目について、添付してください。
- ② 添付する講義要目については、様式第3号に添付する講義要目（p. 18参照）と記載内容は同一のものとしてください。
 - ・ オムニバス方式及び複数教員担当方式の場合は、全教員の担当内容を記入すると共に、当該教員が担当する部分を太字や下線で明確に記載してください。
 - ・ クラス分け方式の場合は、全体の内容及び当該教員の担当内容のみを記載してください。
- ③ 様式第3号に添付する講義要目の記載に加え、ここでは、その授業科目に関連する業績の項目及び番号を必ず記入してください。（例：著書 1，学術論文 2，教育方法の実践例 1…）

【様式第5号（その2）・記入例】

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2 作成した教科書、教材 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
3 教育上の能力に関する学校の評価 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
5 その他 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月○日	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月○日	免許番号：○○○○○○○
2 特許等 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月○日出願	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月○日出願	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
4 その他 1) ○○○○○○○○○○○○○○	平成○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2) ○○○○○○○○○○○○○○ :	昭和○年○月	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
(著書) 1 ○○○○○○○○	単 著	平成○○年○○月	○○○○○書店 全○頁	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2 ○○○○○○	共 著	昭和○○年○○月	○○○○○堂 全○頁	(全体概要) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (担当部分概要) pp. ○～○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (著者名: ○○○○, ○○○○)
(学術論文) 1 ○○○○○○○○○ ○○○○ (査読付)	単 著	平成○○年○○月	○○○学会誌第○号 pp. ○～○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2 ○○○○○○○○○ ○○○○ (査読付)	共 著	平成○○年○○月	○○○○○研究第○号 pp. ○～○	(全体概要) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (担当部分概要) pp. ○～○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (著者名: ○○○○, ○○○○, ○○ ○○, ○○○○) 【筆頭論文】
3 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	○○○学校研究紀要 第○号 pp. ○～○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
:				
7 ○○○○○○○○○ (博士論文)	単 著	昭和○○年○○月	○○大学	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
8 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	○○○学校研究紀要 第○号 pp. ○～○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
9 ○○○○○○○○○ (修士論文)	単 著	昭和○○年○○月	○○大学	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
10 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	○○○学校研究紀要 第○号 pp. ○～○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
(その他) 1 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	第○回国際○○会議要旨集 pp. ○～○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	第○回国際○○シンポジウム 要旨集 P. ○ (ポスター発表)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
3 ○○○○○○○○○ ○○○○ (査読付)	共 著	平成○○年○○月	○○学会○○講演論文集 第○巻第○号 pp. ○～○	(全体概要) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (担当部分概要) pp. ○～○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (発表者名: ○○○○, ○○○○)
4 ○○○○○○○○○ ○○○○	共 著	平成○○年○○月	○○学会○○講演論文集 第○巻第○号 pp. ○～○	(全体概要) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (担当部分概要) pp. ○～○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (発表者名: ○○○○, ○○○○)
5 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	第○回○○学会年会要旨集 P. ○ (ポスター発表)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
6 ○○○○○○○○○ ○○○○	単 著	平成○○年○○月	○○○学会誌第○号 pp. ○～○	○○に関する解説

【講義要目（教員担当授業科目）・作成例】

講義要目（教員担当授業科目）

(専攻科〇〇専攻)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単 位 数	履 修 年 次	授 業 形 態
△△△△特論	必	教 授 △△△△12 准教授 □□□□21 非常勤講師 ◇◇◇◇46	2	2 年次 後期	講義
授業概要	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 【オムニバス方式、複数教員担当方式】				
到達目標	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。				
評価方法	○○○○○(60%)，○○○○○(40%)				
教科書等	○○○○『○○○○○○○○○○○○○○』(○○○○)				
内 容					
第 1 回 第 2 回 ⋮	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ⋮			第 1～5 回	△△教授
備考	第 1～5 回を△△教授が担当，第 6～10 回を△△教授，◇◇講師が担当，第 11 回～15 回を□□准教授，◇◇講師が担当。 ＜関連業績等＞（教育方法の実践例） 1．（職務上の実績 実務の経験を有する者についての特記事項） 1．（著書） 1．（学術論文） 2				

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単 位 数	履 修 年 次	授 業 形 態
〇〇特別研究	必	教員〇名 (内容欄参照)	10	2年次 通年	演習
授業概要	〇〇				

9 教育の実施状況等の審査についての連絡先（別紙1）

- （1）教育の実施状況等の審査に係る連絡先を、別紙1・記入例に従い作成し、「届出書正本」提出の際に提出してください。
- （2）当該連絡先は、①提出書類に係る事務的事項の連絡先、②審査の過程で、教育の実施状況等の審査に係る専攻科の内容等についての問い合わせ等を行うための連絡先について記入してください。②については、届出の内容等について熟知している方の連絡先を記入してください。
- （3）勤務先の電話番号は、できるだけ夜間も通じる直通電話を記入してください。代表番号の場合は、内線番号も記入してください。特に、（2）②に関連して、学校側の代表番号等の対応時間終了後の時間においても審査が行われることがありますので、そのような場合でも確実に連絡が取れる電話番号を含めるようにしてください。

【別紙１・記入例】

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教育の実施状況等の審査についての連絡先

学 校 名			〇〇短期大学（〇〇高等専門学校）	
審査の専攻名			専攻科〇〇専攻 △△専攻	
事務連絡先	問合せ 1	氏 名	〇〇 〇〇	
		所 属 ・ 役 職 名		〇〇課〇〇係
		勤務先	電 話 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			F A X 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			メー ル ア ド レ ス	．．．@．．．
		緊 急 連 絡 先		〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
	問合せ 2	氏 名	〇〇 〇〇	
		所 属 ・ 役 職 名		〇〇課長
		勤務先	電 話 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			F A X 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			メー ル ア ド レ ス	．．．@．．．
緊 急 連 絡 先		〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇		
審査に係る問合せ先	問合せ 1	氏 名	〇〇 〇〇	
		所 属 ・ 役 職 名		専攻科長
		勤務先	電 話 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			F A X 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			メー ル ア ド レ ス	．．．@．．．
		緊 急 連 絡 先		〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
	問合せ 2	氏 名	〇〇 〇〇	
		所 属 ・ 役 職 名		〇〇学科 学科長
		勤務先	電 話 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			F A X 番 号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇
			メー ル ア ド レ ス	．．．@．．．
緊 急 連 絡 先		〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇		
備 考				

【教員審査該当校のみ提出】

10 審査対象教員一覧（別紙2）

- （1）別紙2によりExcelファイルにて作成し、セルの結合または列の挿入はしないでください。
審査に係る専攻が複数ある場合は、専攻ごとにそれぞれ別シートとして作成してください。
- （2）この審査対象教員一覧は、当該審査に係る専攻科において授業科目を担当する教員全員（学長、校長については授業を担当しない場合は記載不要）について、様式第3号に準じて記載してください。
- （3）複数の授業科目を担当する教員については、担当授業科目名毎に行を分けてください。
- （4）「学問分野等」欄の「A欄」及び「B欄」は、別表（p. 36）に掲げる学問分野等のA欄（B欄に記載があるものは必ずB欄まで）から記入してください。
 - ① 学問分野等の区分にあたっては、当該教員の所属する学科、専攻科等の名称によるのではなく、当該教員の担当授業科目ごとの内容に基づいて区分してください。なお、この区分は機構が変更することもあります。
 - ② 区分は、すべて別表のいずれかの学問分野等（A欄及びB欄から記載）によりますが、別表に該当するものがない場合又は区分が不明の場合は、担当係までご相談ください。
 - ③ 前審査を受けた教員については、前審査時における区分も参考にしてください。
- （5）審査に係る複数専攻で開講している授業科目については、「備考」欄に、2専攻共通開講であれば「共2」、3専攻共通開講であれば「共3」と記入してください。

【別紙２・記入例】

〇〇短期大学（〇〇高等専門学校）専攻科

審 査 対 象 教 員 一 覧

〈〇〇専攻〉

個人 調書 番号	専任 兼任 兼任	職名	氏 (漢字)	名 (漢字)	氏 (ひらがな)	名 (ひらがな)	学 問 分 野 等		担当授業科目名	備考
							A 欄	B 欄		
1	専任	教授	短大	太郎	たんだい	たろう	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇論	共 2
1	専任	教授	短大	太郎	たんだい	たろう	〇〇〇〇	〇〇〇〇	◇◇◇◇◇学	
1	専任	教授	短大	太郎	たんだい	たろう	〇〇〇〇		△△△△△演習	
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
10	兼任	講師	高専	一郎	こうせん	いちろう	〇〇〇〇	〇〇〇〇	□□□□□演習	
10	兼任	講師	高専	一郎	こうせん	いちろう	〇〇〇〇	〇〇〇〇	□□□□□学	

【別 表】

学 問 分 野 等 名							
A 欄	B 欄						
文 学	国語国文学	英語・英米文学	独語・独文学	仏語・仏文学	ロシア語・ロシア文学		
	中国語・中国文学	歴史学	哲 学	心理学	宗教学		
教育学							
神 学							
社会学	社会学	社会福祉学					
教養・学芸	比較文化	地域研究	国際関係	科学技術研究			
社会科学							
法学							
政治学							
経済学							
商学							
経営学							
理 学	数学・情報系	物理学・地学系	化学系	生物学系	総合理学		
薬科学							
看護学							
保健衛生学	検査技術科学		臨床工学	放射線技術科学		理学療法学	作業療法学
	言語聴覚障害学		視能矯正学				
鍼灸学							
口腔保健学	口腔保健衛生学		口腔保健技工学				
柔道整復学							
栄養学							
工学	機械工学	電気電子工学	情報工学	応用化学		生物工学	材料工学
	土木工学	建築学	社会システム工学				
芸術工学							
商船学							
農 学							
水産学							
家政学							
芸術学	音楽	美術	演劇				
体育学							

問合せ等連絡先

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

管理部学位審査課認定専攻科係

住 所：〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

TEL：042-307-1542

FAX：042-307-1555

E-mail：g-senkou@niad.ac.jp